初夏愈市清穆奉賀に扨
碌々たる老軀も聖代の餘
光に浴し今年古稀の壽
を重ねに変かしこれも此事
天聴に達し天盃市下賜相
成恐懼の至に奉存に從例
就て拙姉慈貞院を喜壽
拙妻榮子亦還暦の賀に遭
遇段々為厚お諸君より各
而に壽筵を開きて市優遇
我蒙り特に各宅妃殿下よりも
市祝歌を拝受し光栄無此上
就ては諸君に對し聊の感謝の
徽意を表しまらんの為先帝
陛下以来屢々行幸啓を厚し
たる拙邸に於て園遊会を開
催し右記念として拙筆供
光覧に市笑納ふ事ハ本懐
不通之に第々相具
大正四年七月
侯爵鍋島直大